議　事　録

○会議名　　第 21 回佐賀県総合教育会議
○開催日時　令和３年 11 月 16 日（火曜日）14 時 ～ 15 時
○開催場所　佐賀県庁　新館４階　プレゼンテーションルーム
○出席者　　山口知事、落合教育長、牟田委員、小林委員、加藤委員、飯盛（清）委員、
　　飯盛（裕）委員
　　（知事部局）進政策部長
　　（総合教育会議事務局）前田政策総括監、他
○議題　　「大規模校と小規模校について」意見交換

○議事録

１　開会
○前田政策総括監
　それでは、ただいまより第 21 回佐賀県総合教育会議を始めさせていただきます。
　私は、本日進行を務めさせていただきます政策部政策総括監の前田と申します。よろしくお願いします。
　本日は山口知事、落合教育長、教育委員の皆様のほか、政策部の進部長が出席をしております。
　それでは、開会に当たりまして山口知事から御挨拶を申し上げます。よろしくお願いします。

２　あいさつ
○山口知事
　今日は 21 回目の教育会議ということで、このタイミングでお集まりいただきました。
　今日のテーマは、純粋に私がずっと前から思っていたことで、皆さんどうお考えなのかなというテーマなんです。
　幾つか個人的な今までのことを話してみたいと思いますけど、まず私は小学校のときに非常に人口が多かった時代の中で、６クラスあったんですけど、２クラス切り離されて、新しい小学校が小学校５年のときにできて、２クラスしかなかったけれども、それでも６年生になると３クラスになったかな。100 人ぴったりが卒業生で、とってもみんな仲よくて、それが６クラスのときにはほとんど自分というものを認知されていなかったのが、みんなが山口君と言ってくれるようになって、何かすごくその小学校はよかったなと。みんなで新しい学校をつくって、一人一人の個性が伸びやかに、みんなが認識し合っているという思いになっていたりしました。
　最近だと、例えば思ったのが、長崎県から帰ってきて東京に行ったときに、官舎に入ったんですけれども、目黒区立のマンモス校の小学校と、世田谷区立の小規模校と、両方行ける、またがっていたところに官舎があったので、でも、ほとんどの人が東山小学校という、ほとんど校庭が人で埋めつくせるような学校のほうにみんな行く人が多くて、うちはこっちの少ないほうに行ったんですけど、何でみんな校庭が広くて、すごくアットホームなほうに行かなくて、あんな大勢いるところに自分の子どもを押し込むのかなってすごく不思議で、いまだに不思議なんですけど、ということもあったし、

それでもうちの娘は小６で群馬県の山村留学をしたいということで、廃校舎跡に行って、上野村っていう人口1,200人ぐらいの村ですけど、そこで一人、廃校跡でみんなそういう村がやっている、教育委員会が管理している、そういうところに小学校で行ったり、非常に骨太ないい子にガラッと生まれ変わって帰ってきたけど、僕がたまたま知事になったから、その後、佐賀に連れてくることになったりもしました。

ちょっと話は変わりますけど、きのう、おととい、サッカーのある県の決勝戦を見ていたら、片方のサッカー部は274人サッカー部員がいる。片方のほうは147人もサッカー部員がいる。サッカーって11人でやるということは、それ以外の260人ぐらいは補欠と。全員コートに入れない。でも、何で人はそういう大規模なところに入ろう、入ろうとするのかなとすごく不思議で、例えば、佐賀県でも小規模校とかに入ると、特に離島なんか行くと、そこに生徒が４人とかいて、大勢の教員で本当に家庭教師のようにフォローアップが、いろんな日々の暮らしから、勉強から、スポーツからってやるので、それって本当に多くの県でいうと予算をかけて、すごい家庭教師がやっているような教育をやっているんだけど、でも親に聞くと、大規模校に入れたいってやっぱり思うと。これは何なんだろうかって、私はずっといまだにそれがよく分からない感じなんですね。もちろん、社会性を営んでほしいななんていろんな思いがあるのかもしれないし、その辺りって実はすごくどういうふうにこれからの世の中って学校とかってつくっていったほうがいいのかなというところで、とても大きなテーマだと思っています。

私は、基本的に学校再編ってあんまり好きではなくて、私が知事になってから再編室もやめたし、そうやって合理化していくという考え方じゃなくて、個性を大事にしていきたいなというふうに思っていて、教育長にそういうふうになってほしいなって、私としての思いは伝えてあるんだけど、もちろん、これは教育行政だから皆さんが決めることなんだけど、それでも何とか今まで培ってきたそういったものを大事にしながらやってほしいななんて、そういう希望は持っていて、ただ、私もそうやって、でもみんなが大勢の大規模校がいいというような考え方というのも、自分も受け入れなければいけないところがあるから、それが県民のニーズであったりとしたら、その辺り、大分自分の中での格闘であったので、いろいろ皆さんの御意見を聞いて、私なりに修正をさせていただきたいと思うし、自分なりにいろいろ考えてみたいなと思ったので、今日はなかなかない議題ですけど、こういう議題にさせていただきました。よろしく御指導いただきたいと思います。

３　内容

（１）現状について説明

〇前田政策総括監

それでは、本日の議題でございますが、「大規模校と小規模校について」の意見交換というふうになります。

ちょっと前のほうにありますけれども、学校の規模でございますが、こちら教育活動や特色ある学校づくりに影響を与える要素の一つでございます。

本日は、この大規模校と小規模校の現状を共有していただいた上で、それぞれの環境を生かした子どもたちの教育について意見交換をお願いしたいと思います。

それでは、まず落合教育長から説明をお願いいたします。

○落合教育長

私のほうから、県内の小学校の例を取りながら現状どういった規模感になっているのかというのを簡単に御説明したいと思います。

まず、資料の３ページの県内の小学校の規模ですけれども、一番のボリュームゾーンは 58 校となっていますけど、101 人から 300 人ということで、これは１学年当たり１から２学級ぐらいの学校ということになります。30 人以下、あるいは 60 人以下、こういったのは学年当たり数人から 10 人ぐらいの学校というのが 21 校となりまして、一方、700 人以上の大規模校、これは１学年当たり４クラス以上の学校になりますけど、そういった学校も 11 校あるという現状になっています。

次をお願いします。

これは１年生のクラス数で、グラフにしてみましたけれども、１クラス未満ですね、ですから、複式学級で１学年に１クラスに限らない学校が８校・５％、あと１クラスの学校が 80 校・50%ということで、県内で見ると半分以上の学校が１クラス以下という状況になっています。一方、大規模校、４クラス以上の大規模校 12 校・７％あるという状況になっています。

次をお願いします。

規模感でどういうふうな感じになっているのかというイメージですけど、Ａ小学校、１学年１クラスで 10 人ぐらい、全校 60 人の学校だと、モデル的にいくと教職員数が 12 名で、教職員１人当たり児童・生徒数５人ということになります。Ｂ校の場合、１学年１クラスだけど、クラスには 30 人ぐらいいる規模の学校だと、１人の先生当たり 15 人の子どもということになります。Ｃ校、大規模校、１学年４クラスで、しかも 35 人ぐらいのクラスにいるという学校だと、先生１人当たり 20 人生徒の面倒を見ていると、こういうようなイメージになります。

次をお願いします。

小規模校と大規模校のメリットは大体皆さん分かることで、簡単に言いますと、小規模校の場合は一人一人に先生の目が行き届きやすくケアできるという部分と、学校活動により一人一人の出番が多いので、一人一人が主役になるような面が多いということになるかと思います。

一方、大規模校は人がたくさんいますので、そういった中で社会性、協調性、あるいはたくましさというようなものを身につけていったり、学校全体の活気という面がありますし、先生の数が多くなりますので、先生の専門性といいますか、役割分担といいますか、そういった面もあるかと思います。

次、８ページお願いします。

これは小規模校での取組、唐津市の高島小学校の例ですけれども、こちらのほうでは、島の子は２人しか児童はいないんですけれども、児童数が８人、それに対する教職員数 11 名ということで、島留学も本年度から受け入れて、実はこの８名以外にも、不登校対策支援特認校制度を利用している児童もいますので、この学校で勉強しているのは 12 人ということになっていますけれども、そういうきめ細かな教育をされている、こういう事例、こういう離島留学だったり、山村留学も嬉野のほうでやっていますので、そういった事例があるという状況です。

こういったことを踏まえて、ここでぜひ議論を出していただきたいと思います。

以上です。

○前田政策総括監

ありがとうございました。

それでは、意見交換をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

（２）意見交換

〇牟田委員

小・中・高って僕は分けて考えるべきだとは思うんですよね。小学校は先ほど知事が言われたように、まさに１クラス 20 人ぐらいの小規模校は大賛成なんですが、うちの息子もそこの勧興小学校で 20 人、20 人の２クラスでやっていたんですが、息子はすごく満足していました。

だけど、中・高となると、やっぱりある程度ボリュームがないと、先ほど教育長が言われたように先生の特色なんかも必要なので、中・高、子どもが成長するにつれてある程度人数があって、クラスもないといけないんじゃないかとは思っています。その後息子は中学に行って、中学は４クラスなのかな、40 人ぐらいの。高校は 40 人の７クラスぐらいあるのかな。人間的に成長するにつれて大勢の人と会えることは、彼は楽しみだったみたいですね。だから、小学校では少人数で大いに結構だと思います。だけど、じゃ、大規模校は実際そんなして、大人数のクラスが存在して、それはどうするのという話になるので、それはちょっと振りたいと思います。

〇飯盛（清）委員

こんにちは。今、これを見ながら思い出したんですけど、40 年前、私が教員になりたての頃、佐賀市内の小学校の 1,000 人以上というのはたくさんありました。だんだんだんだん減ってきて現状になってきて、今一番多いのが八百何人ですかね、たしか。私が校長をしたときに、900 人規模の三日月に勤務したこともあったんですが、幾つかさっき長所にも出てきましたけど、切磋琢磨できるとかいうのがありますが、家庭環境においても少子化が進んできて、もまれる怖さよりも大事に育てたいというような保護者の方の思いも強いのかなと、最近の傾向としてですね。知事がおっしゃった中にもそういったものが含まれているのかなという気がしますし、今、牟田さんがおっしゃった中にも、そういったことがあるんじゃないかなと思います。

逆に、大規模校のマイナス面というかな、そういうものがあるんですけれども、一人一人に細かい体験がしにくいとか、それだけの数はちょっと見学は無理ですとか、そういうなんかもあったみたいです。

〇小林委員

我が家は、たまたま住んでいたところの地区が、校区が大規模校なので、３人とも３クラスとか４クラス、それも４クラスの 40 人いっぱいぐらいの学年で、今娘が中学生で７クラスあるんですね。それは少人数を選択していただいているので、三十二・三人ずつなんですけれども、大規模になったら、35 人以下学級にしても、どうしても 30 人前後の人数になるので、20 人ぐらいのきめ細やかなというのを体験せずにうちの子どもたちは過ごしてきました。

やっぱり大規模だから、本当に宿泊学習のときにも、人数が多過ぎるから、カッターボート体験 はできませんとか、修学旅行も、それだけとは、理由はそれだけじゃないんですけど、コロナで最初の日程が中止になって、色々 二転三転したんですけど、結局、大人数でもあるので、なかなか取れなくて、日帰りになったりとか、何かいろいろ大規模だからということはあるかなという、デメリットはあるかなと思ったんですが、多いからこそ、いろんな人に触れ合えるというのがあって、ちょっとうまくいかないことがあってもクラス替えをしてもらうとか、先生もいろんな先生がいるので、必ずしも担任の先生は合わないなと思っても、ちょっと部活の先生がいるとか、副顧問の先生がいるとかで、いろんな人には触れられるのかなというのは思ってきました。

あと、知事が言われた、大きいほうを選ばれるというときに、幼稚園、保育園になるまでなら武雄

市内の周辺、周辺と言ったらいけませんが、武雄市ではなくて、１クラス１学級のクラスになる校区に住んでいる方たちも、小学校に上がる段階で武雄町内に引っ越してくる方も結構いて、話を聞いていると、競争心が芽生えないとか、あとは塾や習い事のことを考えると中心部に住んでいるほうが、そういうことをトータルで考えていいのかなと言われたので、私は、うちは大規模校しか知らないので、私自身も、私も小学校のとき６クラスで、1,000 人以上いるような学校だったんですけど、小規模もさっき言われた、本当に個人の名前をみんなが呼んでくれる、そういう体験を私自身もなかったし、よく分からないんだけれども、何となくみんな多いほうを選ばれてくる、多いほうが何か迫力があるとか、部活動が選べるとか、そういうのもあったりするのかなとも思っています。それぞれですね。

○加藤委員

うちは、不登校を受け入れているということもありまして、大きな学校に行っていて、その中学校で不登校になると、小規模校に転校しているんですよね。そんなに数は多くないんですけど、やっぱり大きな学校でうまくいかないということになると、保護者の方が小規模の学校で見てもらいたいという強い希望があって、保護者の方は、毎日送られているんですね。寮がないので。うちの在校生の中ではあります。

それと、私は離島の学校に研修会の講師で行ったんですけれども、島には児童養護施設があるんですよね。そこで子どもたちは中学卒業まではあそこで生活ができるんですけれども、その後のことを考えると、先生たちがどこに進学させようかというところは、悩まれているというか、その子に合ったところ、島内での生活はできるけれども、やっぱり進学となるとちょっと考えないといけないというところでは悩まれていました。そういう感じですかね。

○飯盛（裕）委員

私は小林さんと同じで、小学校は 1,200 人ぐらいの大規模小学校だったんですよね。中学校も比較的大きな中学校で活気がある学校でした。今振り返ると、同窓会とかすると結構集まるので、楽しかった学生時代かなと思いますけど、逆に高校はヨーロッパのほうに行ったので、１クラス当たりが 30 人弱ぐらいだったんですけど、そっちの環境のほうが先生とのやり取りが密だったとか、クラスの友達同士のやり取りが、みんなと密にやり取りをしていたなという記憶はあります。

職業柄、いろんな小学校を回るんですけど、三瀬小学校に行ったときに、すごく校長先生がおっしゃられていたのが、我々は卒園した園児たちを送り出して、小学校１年生どうやっているかなと。大体うちは日新校区なので、いろんな学校に行くんですけど、やっぱりみんな緊張するんですよね。三瀬とかだと、卒園児がそのままお兄ちゃん、お姉ちゃんがいるところに移るだけなので、入学式もの すごくアットホームで、みんな入ってくる子が誰か知っているし、登下校のときもお兄ちゃん、お姉ちゃんとグループに分かれて帰っていくと、そういう環境みたいですね。給食もカフェテリアというのがあって、そこに１年生から６年生まで集まって、みんなで食事をする。ああいう三瀬のような環境はすごくいいな、大規模校になるとそれは難しいとは思うんですけど、やっぱり衣食住じゃないですけど、常にいろんなことを共にする環境というのはすごくいい環境だなと思いながら、三瀬とかを見ていました。

だから、大規模校、小規模校というよりも、１人の先生が大体何人ぐらいまで見ることができるのかな、多分その辺のほうが大切じゃないかなと思うんですよね。個人的に 40 人から 35 人に減らした、35 人もちょっと多いような気がするんですよね。

○牟田委員
　飯盛（清）さん、だいたい何人くらいで見れると言ってたっけ。

○飯盛（清）委員
　40 人しかいない学校は、41 人になると半分になるんですよね。これが 80 人が 81 人になると 27 人になると。大きくなればなるほどその減り方が少ないということで、1 人についてくる仕事の量も担任は減りますし、余裕が出てきたら子どもとも触れ合えるということにもなってくるわけです。

○牟田委員
　30 人以内ぐらいがいいね。

○飯盛（清）委員
　もう一点、別の件なんですけれども、佐賀市が隣接校区の選択性というのをやっています。御存じだと思いますけど。もう 15 年以上やってて、これは元の田部井教育長という方がいらっしゃって、東京からお見えになった方なんですけれども、さっきまさに知事がおっしゃった、近い学校は自分で選んでいいというような制度を導入された。
　現在、1 学年、佐賀市が 2,000 人のうちの約 200 名ぐらいが希望しているそうです。まちの中心部であれば選択肢が多いわけですよね。それを希望する理由として、学校が落ち着いているという、この情報をじゃあ誰が出しているのと聞いたら、よそから転居してくるときに不動産屋さんが判断しているんだそうです。そういったのがあったりとか、あと特別支援教育が充実している学校が幾つかあります。ユニバーサルデザインが進んでいる学校とかですね。それから、あと幼稚園、保育園のときの友達と一緒の学校に行きたいとか、あとは大きい道路を横断しなくて済む学校を選びたいとか、そういったのがあるんだそうです。
　学校側としては、通学範囲が広くなりますから、危険性が増えるという心配もあるわけです。あと小学校の場合、地区別で集めて子どもたちに指導することがあるんですが、その所属する地区がなかったりとか、あとは生徒が 1 人、2 人増えることで、あるいは逆に選ばれなかったところが減ることで学級数や職員数に増減が出てくるというようなこともあるそうです。
　あと、さっき三瀬の話が出ましたけど、松梅小と芙蓉小は随分前から特認校ということで、保護者が子どもさんに事情があった場合は、希望すれば親の送り迎えというのが原則ですけれども、今も受け入れていると。
　大規模校を私が校長でいたときに、やっぱり昼休みとか、掃除の時間というのは活気があると言えばいい言葉なんですけど、もう本当にざわざわしているので、特に発達障害をお持ちの子どもさんなんかはもうそれが耐えられないというようなこともあって、小さい学校、少ない学校のほうがいいというような声も聞きます。以上です。

○牟田委員
　今、お二人の総括ですが、クラスに、学校になじめないと、あんまり人数が少ないと弾かれて嫌だから、人の多いほうがなじめない人にはいいのかと思ったら、そうでもないんですね。

○山口知事
　それは間違いない。多いほうが孤独。

○牟田委員
　10 人ぐらいのほうが逆になじめなかった場合、ほかに行き場がないからだめなのかと思ったら、人数が 40 人ぐらいいたら、そういう大人数になじめない人が多いということ？

○加藤委員
　そうですよね。恐らく小規模校に行くとマンツーマンで先生と関われるということ。

○牟田委員
　だから、そこに結論がいくんじゃないかと思って。小規模になってくると、小学生ぐらいだと、先生の指導というのは大事だから、目が届くようになるんでしょうね。

○加藤委員
　そうだと思うんですよね。

○牟田委員
　40 人ぐらいいたらちょっと違ったほうがいいけど、先生の指導がやっぱり 40 分の１になっちゃうから、だめなんですよね。

○山口知事
　だから、この総合教育会議も、６人と１人だから、必ず取りこぼしがないというか。だけど、40 人おられると、何か意見ある人といって、何か一人寂しいねと。

○牟田委員
　そういうのがあるね。

○山口知事
　だから、小さい部類のところを見て回ると、そういう取りこぼしに出会ったことがない。やっぱりその人をみんなが大事にしようということで、今日ちゃんと頑張っているとか、関わることが大事。そんな雰囲気なので。

○牟田委員
　なるほど。分かりやすい。僕、教師の目が届かないほうが自由でいいのかなと思っていたけど。

○山口知事
　それは違う。だから結局、選択できるっていいなって、さっきの話も聞きながら思っているんだけど、ただ、県民の皆さん方に、実は勝手に「もんだ症候群」で、大勢のほうが、大規模のほうが何となくいいって勝手に思っているとしたら、よく比べてもらいたいなという問題提起なので。だから、意外と少人数のよさってすごくあるので、それを分かった上でいろいろ御判断いただくというのは手かなと。

○牟田委員
　なんか少人数のほうがいいような気がするね。

○山口知事
　でもね、ただ何となく、もう一個違うのは、やっぱり大規模校に入れたいけど、クラスは30人以下にしてくれという御意見がやたら多いんだよね。だから、不思議な親心というか、大きい学校で、でもちゃんと目を向けてほしいみたいな。だったら、小規模校に入れたらいいじゃんとか思うんだけど、なかなかそうもいかない。

○小林委員
　選べる、隣り合った小学校があればいいですけど、うちは選べないし。

○山口知事
　渋谷区とかは好きに選べた気がするけど、たしか。

○進政策部部長
　渋谷区は、そうかもしれないですね。

○山口知事
　どこの学校に行ってもいいよって。

○進政策部部長
　区内だったらどこでもいいですよって。

○山口知事
　だから、小さいクラスのところと大きいところと。

○進政策部部長
　各校が特色出してたから。

○飯盛（清）委員
　東京は、田部井教育長がいらっしゃった頃にお聞きした話では、生徒数が減ってきていて、学校を統廃合しないといけないと。それぞれの学校に独自性を持たせるためにそういう制度を入れたということを言われていました。

○山口知事
　だから、自動的に淘汰されるようなところもあるわけですね。

○飯盛（清）委員
　あと、この時期になってくると、保護者の方が時々お見えになって、トラブったから来年はあの子とは一緒にしないでほしいと、お願いにちょこちょこ見えます。

○落合教育長
　子どもの状態によって、あるいは発達段階によって規模の最適さというのも違うのかなという気がしますね。さっきの島留学あたりの子を聞いていても、大規模な学校はなかなか難しかった子がそういうところに行くという子もいれば、大規模でもまれることで成長できる子もいるので、学年によってはもちろん違うし。

○山口知事
　進さんはどうですか。

○牟田委員
　少人数クラスを実現していくためには、教員の数を増やしていかなきゃいけないんですね。

○進政策部部長
　それはそうですね。

○山口知事
　そこは一般的な、よくありがちな議論なので。

○飯盛（清）委員
　学校の教員、先生方は、私の今までの印象として、次の異動が大規模校、小規模校といった場合に、小規模校のほうがやっぱり喜ぶ人が多かったかなという印象があります。

○山口知事
　教員はそうなんですか。

○飯盛（清）委員
　生徒間のトラブルも少ないですし、それについてくる保護者からの訴えなども少なくなる可能性は高いですし。ただ逆に、いや、大規模校のほうがいいという人は、４人担任がいたら分担ができると。学年でも分担がある仕事、これが例えば、学年だよりを月１回出すとしたら４か月に１回。ところが、１人だと自分一人でしないといけない。それから、何か進めるときにも相談ができるというようなメリットも大規模校はあるみたいです、教員側から見てですね。

○進政策部部長
　中、高なんかは、ある程度はいてよかったなと思いますけどね。
　僕がいたのが 40 人で、中学３クラス、高校４クラスでしたけれども、あまり大き過ぎるとどうかと思いましたけど、先生との関係もそうですけど、友達同士でいろんな人と交わることで自分はどういう人間かとか、こういう人と合うんだとかもあるし、あと全然スポーツやりたいとか言っても、人数が少ないと、それこそ島とか行ったら野球をやりたいといっても人が足りないとかあると思うし、あとは文化祭、学園祭とかでもやれることは限られてくると思うので、自分が育ってきたことを振り返ると、結構適度な規模だったかな。

１学年 120 人ぐらい、中学３年間やっていくと、そんなにマンモスでもないので、先生とも何となくみんな個々人で分かり合えるぐらいの規模だったとは思います。結構近くの学校なんかは１学年が 500 人いたんですが、そこは完全に個々が埋没していたので、目立つ子しか分からないという、ああなっちゃうと多過ぎるなと思います。

○山口知事
小学校は少人数でいいんじゃないかなって、何となく今のみんなの話を聞いて思いました。

○進政策部部長
はい、そんな感じがしています。

○山口知事
仲間がいて、いろんなことを話し合いながらとか。
確かに上になればなるほど、もう高等教育だから、自分なりに考えが定まってきているからね。だから、その中で選択しているわけよ。ただ、小学１年、２年ってまだ自我が芽生えていない段階で親が大体決めているからということがあるのかな。

○落合教育長
僕は先生の経験はないんですけど、少年サッカーの監督を数年やっている中で、サッカーって 11 人でやるから、５～６人だと、一人一人、目は行き届くけど、できることに限界があって、かといって、50 人になるととても面倒見きれなくなるんですけど、やっぱり 20 人とか、ゲームができるぐらいの人数、その辺が最適規模になってくるじゃないですか。そういうのが学校にもあるのかなと。
だから、少なければそういう一人一人、目が行き届く面もあるけど、活動の選択肢とか、多様性とかいうのは制限される部分があるので、１クラスは割と少ないほうがいいけど、ある程度数人じゃ、そういうのが向いている子は向いているんですけど、もうちょっと体験させたい部分が、物足りない面もあるのかなという気はしますね。その辺の、どの辺が最適な、もちろん低学年は少ないほうがいいのかもしれないけど。

○山口知事
マンモス校って孤独だよね。自分が目立っていれば別だけど、普通にしているとふと孤独になることがあるよね。

○落合教育長
マンモス校は、寄らば大樹の陰的なところがあるんですかね。さっきの部活の強豪校でいくと、当然強豪に行きたいという気持ちは分かるけれども、あなたがそこに行っても試合には出れんよねと思うけど、目指すじゃないですか。

○山口知事
何で 276 人もサッカー部に入るの。とびきり強いならいいけど、だったら、もっと別の部活にするとか、ほかの学校に行って高校時代活躍したいとか、何とも思わんのかなと思います。

○落合教育長
　一流の一員になりたいという気持ちがどこかにあるんでしょうね、憧れみたいなもの。

○山口知事
　憧れ、大きな組織の中で。

○落合教育長
　それがあるんだろうと思います。ただ、自分がそこに行ってどう活動するのかというのが描けていない。

○山口知事
　何か人間が大きな勘違いがあって、大きなところの一員になることで、自分が輝いているように、何となく、かなって。だから、そこって何かちょっと残念というか。

○進政策部部長
　今は結構時代が変わってきていますから、昔はそういう大きなところに、どこに属しているかで自分の価値をなんかやってた。

○山口知事
　まさに偏差値教育みたいな。

○進政策部部長
　そういう客観的な属性で評価していた感じ、今はそうじゃない。どこに属しているかなんて関係ないというのが。

○落合教育長
　自分が一番輝くにはどうしたらいいかということになると、そうならないはずなんですよね。

○山口知事
　うん。だって、人生って、一日一日死なずに生きるかどうかだから、全体の客観的な評価って意味ないということに気づかせてあげるというか、そういうのが教育システムの中に入っていればいいかなと。

○落合教育長
　昔のを引きずっている面もあるし、世の中が変わりつつある面もあるということでしょうね。

○飯盛（清）委員
　先ほどの１つのサッカー部で 200 人もいるというのは、昔の考えなんでしょうけれども、そこを出ているということが３年間耐えたというんですかね。

○山口知事
　そうかも。

○飯盛（清）委員
　就職をするにしても、大学に行くにしても、それが武器に一つなるというのもあるんではないか。

○山口知事
　それは聞いたことがあります、確かにね。

○飯盛（清）委員
　今、私、高校生の面接指導なんかを時々するんですけど、じゃ、あなたは３年間で何を学んでいるか、そこをきちっと整理して言えるようにしとかんといかんというようなことを言ったりしていますけれども、レギュラーでなかったような子は特にですね。

○山口知事
　それはそれで、指導者の人たちと話をするんだけど、やっぱり多過ぎると思っている。ただ、やっぱりみんなで頑張ろうという雰囲気は必ずつくるので、部活って、そこからドロップアウトさせないようにはするので、その辺、もし仮に 270 人の中でほかのことをやりたいと思っている人がいたら、それは自由になるような仕掛けがあってほしいなと思う。何となくもう「おれたちでつかみ取るんだ、おまえらは仲間だぞ」というのもいいけど、抜けられるというか、部活がないって大変なんだぜ、結構。何となく居場所がなくなる気がするので。うちの娘たちもそうだけど、そうすると学校の中に居場所がいると。

○落合教育長
　ああ、抜けると。

○山口知事
　抜けると。だから、ついついとかね、この辺の環境って大事だよね。

○牟田委員
　今のは高校の話、どっちかというと高校の話。
○山口知事
　今のは高校ね。だから、高校は大きいほうがいいのかなという話。

○牟田委員
　そうそう、僕はね。

○進政策部部長
　ある程度ですよね。あんまりマンモス過ぎてもちょっと。

○牟田委員
　マンモスったって、そんなすごくでかい高校とかは想像していないけど。

○進政策部部長
　例えば、私が行っていた高校はよく比較される、進学校で言うと、開成という学校を比較されますが、あっちはマンモス。うちはやっぱり面倒見がいいというふうによく言われます。

○牟田委員
　マンモスって 40 人の８クラスぐらいなの。

○進政策部部長
　それぐらいありますね、開成だったら。

○山口知事
　400 人ぐらいいるの、１学年。

○進政策部部長
　ええ。だから、もう目立たなくなっていくと無視されていくらしいですね。そういうふうな、入ってから本当に幸せなのかというのはよく言われます。そういう意見があるというだけで、すいませんけど。

○山口知事
　親はそういう大きなところとか、そういうレッテルみたいなところに入れよう入れようという人が多いんじゃないですか。

○飯盛（清）委員
　小学校はそうじゃないような気がしますね。やっぱり少なくて、大きな学校でも１人、２人で学級数をさっき言ったような変わるようなところですね。だから、私、校長時代は、困るのが、５つの学年は２クラスあるんだけど、１つの学年だけ 40 人になるというようなところの境目の学校があるんですよ。そうすると、そこの担任というのは、ほかの担任と比べると負担が重くなったりするから、そういうときには待ちというか、いろんなところにあと１人なんです、あと１人なんですという情報を校長として出して、隣よりもこっちへ来てもらうみたいなことがうまくいったこともあります。

○山口知事
　そこはすごい数字継時 にやっているんですね。41 人になったら丸と。

○落合教育長
　41 人は許されないですからね。

○飯盛（清）委員
　ただあと、41 人に関しては、特別支援学級に在籍している子どもさんは、それに含まれないんですよ。ところが、全ての教科をそっちで勉強するわけじゃなくて、こっちに戻ってきて受ける。そのとき 43 人とか、佐賀新聞に６年生の数で 40 人以上になっているのはそういう理由なんだろうと。そこも大変なわけです。

○山口知事
　そうですね。支援学級の子が結構多いから、そう、行ったり来たりするんだよね。
　でも厳木高校の志願者が急増したのがうれしくて。小さい高校と聞くとみんながそこに行きたいって、何か少し気づいてくれたところもあるのかなみたいな。そうやって大事にするっていう、一人一人を。

○牟田委員
　地元の人たちがその学校を大事にすることがきっと大事なんですよね。
　勧興小学校は生徒数が少ないから、運動会は地区の、知事も見たことがあると思うけど、一緒にやるから。すっごく盛り上がるの。町内対抗運動会みたいだから。僕は６年間いつも出たけど、燃えてたよ、いつも。

○山口知事
　だから、面白いんだけど、勧興小というのは小さいのよ、本当に２クラスしかないんです。成章中に行くときに、神野小というマンモス校、どんどん人口が増えていて、そこと一緒になる。

○牟田委員
　全然戻るんですけど、地元の御父兄さんの家族とか一緒にやっているというのは非常によかった。ただ、高校も小さな高校は地元の人たちがいろんなことを支えてやれば、生徒たちも楽しいだろうし、地元の人も楽しくなる。

○落合教育長
　小規模でしかできない特徴を打ち出していくと、そういう感じになってきますね。

○山口知事
　なってくる、なってくる。だから、そこが僕ら唯一無二の学校再編というか、嬉野高校は県立だけど、嬉野市立と思っていいんだよ、みんなで支えてって、地域と一緒に向き合っていればすごく気持ちが入ってくる学校、特色が出てくる。

○飯盛（清）委員
　あと、中学と高校のつなぎの部分で、今回、情報をいろいろ現役の先生から集める中に、自分は松梅小・中から致遠館に進んだと。入学式で人に酔ったと。

○山口知事
　人に酔った。

○飯盛（清）委員
　大きな学校に進む同級生の中に行けなくなった子どもが複数いたと。だから、つなぎの部分が大事だと。

○加藤委員
　うちも多いですよ。小規模校の小学校から中学校に移ったときに、いきなり増えるから適応できない。そこのつなぎのところがうまくいったらいいなと思います。どうにか何か考えていただいて。

○山口知事
　僕らの頃ってさ、こういう時代だからさ、一人一人があまり大切にされている気がしなかったよね。もう 50 人いて、まだ授業しているよねみたいな、何となく分かる。今結構きめ細かく昔よりずっとやっているわけなんだけどさ。

○小林委員
　私、高校が 11 クラスあったんですよ。卒業アルバムで初めて見る人が、知らん人ばっかりだし、修学旅行は２つに分かれて、１日ずらして行きました。

○落合教育長
　いっぺんに泊まれないよね。

○小林委員
　そう。

○牟田委員
　学校が 11 クラスってさ。

○落合教育長
　佐賀も佐賀西とか、佐賀の高校なんかもそんなもんだと思います。10 クラス以上。

○加藤委員
　北高も多くなかったですか、北校。西も北も。

○山口知事
　何か５クラスぐらいが限度じゃないかなという気がする。

○落合教育長
　昔のイメージがあるんでしょうね。昔の県立高校って、我々、唐津とか伊万里でも８クラスぐらいあったし、佐賀だと 10 クラス以上あって、その頃の何かノスタルジーがみんなあるよね。

○山口知事
　そしたら、同窓会とかどうするんだって。知らないやろう、名前を見て、おー牟田君って言われんやんね、８クラスもあったら。

○牟田委員
　８クラスぐらいは、まあぎりぎりね。

○山口知事
　大丈夫ですか。

○牟田委員
　大丈夫よ。そこからいくと５クラスぐらいがいいのかな。

○落合教育長
　去年、佐賀西高校が１クラス７から６に減って大騒動したけど、さっきの進部長の話とか聞くと、最適規模って何なんだろうって思いますよね。以前の大規模校のときのあれとはまた違うけど。

○山口知事
　飯盛（裕）さん、海外とかだと結構自由に行けるの、学校って。エレメンタリースクールの。

○飯盛（裕）委員
　アメリカは、その校区に住んでいないといけなかったので、やっぱりいい高校とか中学校だったら、そのスクールディストリクト に親がアパート借りたりとか。

○山口知事
　親が移る。

○飯盛（裕）委員
　移って、そこに行かせるというのがありましたね。

○山口知事
　自治体ごとに全然違うしね。

○飯盛（裕）委員
　ヨーロッパのときは私、地下鉄に１時間ちょっと乗りながら通っていましたよ。別のところとか。いろんな、結構選べたので、ウィーンの十何区あるんですけど、別に隣の３区に住んでいる人が５区の学校に行ってもよかったので。

○飯盛（清）委員
　学校の規模でいくと、小さい学校、生徒は少なくても市町の教育委員会にかける費用というのは、生徒数じゃない、基礎的な部分というのがやっぱりあるから、これの負担は結構数が多いと重いみたいですね。割り出しすると１人にかかる経費が高くなってくる。
　ただ、やっぱり統廃合は地元も強い反対をされているということで、多久が進みましたけれども、学校がなくなった、小学校がなくなった地域はもう昼は寂しいもんだというような話を聞きますし、佐賀市は、それはもう絶対しばらくは考えないでいこうと考えているみたいで。

○山口知事
　統廃合は寂しいよね。本当にしたくない、統廃合は。

○加藤委員
　そうそう、私は地域の方というのは、学校があるから活気があるという、子どもたちは地域で育てるんだという思いが、すごく強いんですよね。だから、自分たちの地域から学校がなくなるということがとても反対が出て、まとまらない。そして、通うのも中央に集まるから、大変なんですよね。

○牟田委員
　やっぱり人口増だね。

○山口知事
　人口増もそうだし、あとは県外からの流入とか、こういうのがずっと昔の歴史をひもといてみると、やっぱりこういう時代は県内優先というようなあれがあったけど、今、そこ推奨する必要ないので、お客さんに来てもらって全然構わないし、文化でもスポーツでもそうだし、だから、そういうような形で盛り上げていくというか、地域を盛り上げていくというふうにしていかないと。

○落合教育長
　さっきの高島も島の子は二人で、よそから 10 人来ているから、そういう残り方もあると思うんですよね。まちの大規模校じゃなかなか難しい子のそういう行き場所として。島の人たちにもかわいがってもらっているんでですね。

○牟田委員
　となると、寮とか、あるいは地元のおじいさん、おばあさんが一緒に住んでいいよとか、ただ住めないと子どもたちは、山村留学した娘さんたちはどっか行ったんでしょう。

○山口知事
　寮がある。

○牟田委員
　そういうのが必要になるというね。

○山口知事
　だから、寮は必要。寮は僕らのほうがつくらなきゃいけないし、今度、スポーツ留学も私たちが民間として寮をつくることにしたし、やっぱり住むところがないと。

○牟田委員
　いいと思います。

○山口知事
　多くの人が佐賀で学びたいと思えるようなものをつくっていきたいなと思うし、わざわざ寮に入って通学してでも。

○加藤委員
　そしたら学校を少なくする必要ないですもんね。

○山口知事
　そうそう。まさにそれ。

○加藤委員
　佐賀県の学校はとてもすばらしいということで外からもよべますね。

○山口知事
　その観点がほとんどなかったので、大体今の小学生、今の幼稚園生、今の５歳児って分かるわけですよ、計算すれば。だから、それを基に学校の再編計画を立てているからできないと思う。

○加藤委員
　そうですね。

○山口知事
　だって、お客さんたちは流動的だからさ。佐賀の教育がよければ。

○進政策部部長
　まあ、そうですね。

○山口知事
　そこの価値がないから、単に統廃合という話になってしまうので。

○飯盛（清）委員
　香川県かどこかが高校を全国から募集をしていると今回出ていましたね。

○山口知事
　うちも有田工業がやっているし、これを増やしたい。

○落合教育長
　基本、県外募集で今積極的にどの学校もそれにしたので、潮目を少しずつ変えていかなきゃいけないですね。

○山口知事
　そう。だから、伊万里高校は伊万里高校であってほしい。県外からどんと伊万里高校。先生方の感覚がやっぱりそうなってくるといいよね。自分の学校を大事にするとか、自分の県の教育を大事にするという意識、生徒というのは財産なので、我々にとって、県にとって。

○落合教育長
　昨日、太良高校に行ってきましたけど、太良高校も実は諫早に行くより長崎県のこっち側のほうは太良に来たほうが近いんだと向こうの人も気づいてくれて、なので、歓迎されています。そういう動きを学校ができるようになってきたというのが大きいんじゃないですかね、話を聞けば。

○山口知事
　だから、自転して太良高校の先生たちがみんなで集めてこようと思えるようになった、厳木みたいにね。

○落合教育長
　はい。

○牟田委員
　いい発想です。

○山口知事
　学校が残っててよかったよ。なくなってしまったら戻すのはもう無理なので、なかなかね。だから、本当にそこで残すのがすごく大事。
　10 年ぐらい前の議事録を見ていると、なくす議論ばっかりしているからさ、佐賀県でも。悲しくなってきたよ、読んでて途中で。涙が出てくるぐらい。むしろ、県議のほうがなくさないでと言っているのに、県のほうがやめますみたいな。やっぱり自分の学校がなくなるのはつらいよ。

○牟田委員
　つらい。

○前田政策総括監
　そろそろお時間でございますが、よろしゅうございますか。

○山口知事
　今は小学校なんかは、日本人ってほとんど山の中に住んである人は、エネルギー源が山の中だから、夏とかさ、あと田畑もそうだけど、だから、本当にいっぱいいっぱい後から来て、日本の山の中には各都道府県、何かすごい打たれるものがあるので、こんなにいっぱい昔は山の中に人が住んでいたん

だなって。

○飯盛（裕）委員
　一昔前、ネット環境が全然そろっていなかったら、田舎に行くと制限されるじゃないですか。でも、ＩＣＴとかいろいろ導入されると、結構ハイクオリティーな教育とかも受けられますからね。

○山口知事
　三瀬とか、それこそ富士とか、あのエリアって、逆振れして人気出ると思うけどね、いずれは。すごいいい高原だし。

○加藤委員
　三瀬すごくいいですよね、私も好きです、三瀬小・中。スクールカウンセラーで行っていて、とてもいい学校だなと思いました、本当に。みんなが仲がよくて、小学校と中学校が一緒に御飯食べるんですよね。

○山口知事
　小中一貫９年間。

○飯盛（裕）委員
　プラスあれですもんね、全学年、校長先生もそこで一緒に食べるんですよね。

○加藤委員
　そうそう。皆さん全員一緒に。

○飯盛（裕）委員
　本当にカフェテリアにみんな集まってわいわいがやがや。上の学年の子たちが今日の献立はこれですとかいろいろしてね。いいなあと思って。

○加藤委員
　ただ、冬は雪がとても積もるので通うのが大変でした。

○山口知事
　今日は何かすごい頭の中が整理されて、今日はいい会議でした。

４　閉会
○前田政策総括監
　よろしゅうございますでしょうか。
　それでは、以上をもちまして、第 21 回総合教育会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。